



あのまちこのまち

日本水工設計株式会社／東北支社／下水道課 厨川 修



1. はじめに

私は青森県十和田市に生まれ、大学では土木工学を専攻し、2000年に日本水工設計株式会社に入社しました。早いもので、2019年で社会人生活20年目になります。

入社以来、下水道事業を中心に計画、管きょ設計、処理場設計、台帳などを担当し、甚大な被害を及ぼした2008年6月の岩手・宮城内陸地震、2011年3月の東北地方太平洋沖地震、2016年4月の熊本地震では、被災された自治体の災害復旧や災害査定のお手伝いをさせて頂きました。現在は、経営戦略、地方公営企業法の適用や包括的民間委託の導入検討等の業務に携わっています。

入社時は、東北支社への配属となりましたが、その後何度か転勤を経験しました。東北支社1年、青森事務所5年、東北支社5年、東京支社に4年勤務した後、今は再び東北支社に戻って5年目になります。

仕事柄、いろいろな自治体と仕事をさせて頂く機会があります。これまで仕事で訪れた自治体を数えてみたところ、70を超えておりました。思い返してみると、70の自治体それぞれに思い出や思い入れがあります。初めて担当させて頂いた自治体、失敗して怒られた自治体、すばらしい景色に出会える自治体、お気に入りのお店があって打合せに行くのが待ち遠しい自治体など、さまざまです。

この約70自治体の内、東北地方の中から私の『あのまちこのまち』をご紹介します。

2. あのまちこのまち

(1) 青森県 つがる市

つがる市は、青森県西北部に位置する人口約32,000人のまちです。市の南方には津軽富士と呼ばれる岩木山と世界遺産の白神山地を望み、中心部は岩木川により育まれた広大な津軽平野が拓けています。津軽平野は、厳しい冬には一面雪が積もり真っ白で寒々としておりますが、初夏にはみずみずしい緑に、秋には稲穂が実って黄金色に色付きます。この田園風景はすばらしい一言です。



写真-1 遠くからでも目立つJR木造駅の駅舎

つがる市には、国の重要文化財に指定されている遮光器土偶が出土したことで有名な亀ヶ岡遺跡をはじめ、石神遺跡、懸河遺跡などの遺跡が数多くあります。東北の駅百選に選ばれたJR五能線の木造（きづくり）駅は、この遮光器土偶（通称しゃこちゃん）の形をした迫力ある駅舎となっていて遠くからでも目立ちます。運が良ければ目を点滅させて電車の発着をお知らせする『いらっしゃいびーム』をみることができるようですが、残念ながら私はまだ見たことがありません。

木造駅前には地元の方々に古くから愛されているこじんまりとした食堂があります。津軽地方では、百年近く続く大衆食堂を総称して『津軽百年食堂』と呼んでおり、このお店は津軽百年食堂のひとつです。お昼時はいつも地元のお客さんでいっぱいです。地元の方から愛されていて歴史のあるお店ということもあり、麺類から定食までメニューは豊富です。このお店の名物は、東京の中華料理店で修業を積んだ四代目の店主が作る、ピリ辛で胡麻風味のスープと縮れ麺が良く絡む担々麺と、ふわふわの卵焼きの上にごろごろとチャーシューがのったチャーシュー丼です。他のメニューも食べてみたいのですが、私はいつもこの2つのセットを注文してしまいます。

私にとって、つがる市は打合せに行くのが待ち遠しいまちのひとつです。

(2) 岩手県遠野市

遠野市は、岩手県の内陸部に位置する人口約28,000人

のまちです。民話の里とも呼ばれるほど古い言い伝えが多く残っており、民俗学者の柳田國男が発刊した遠野物語が有名です。市内には遠野物語の世界観に浸れるスポットが数多くあります。

今でも、伺う機会が多い遠野市ですが、初めて仕事をさせて頂いたのは入社間もない頃でした。上司と二人の現地調査で、炎天下、汗だくで一日中歩きまわった後、市内の民宿で飲んだビールが格別においしかったことを覚えています。当時はほとんどお酒を飲まなかった私ですが、初めてビールをおいしいと思った瞬間でした。

その時は知りませんでした。民宿で飲んだのは遠野産のホップを使用したビールでした。遠野市はビールの原料となるホップの産地で、その生産量は国内屈指です。毎年秋には、その年に収穫したばかりの遠野産の生ホップを使用したビールがお店に並ぶので、ご存知の方も多いのではないでしょうか。

毎年8月には、ホップの収穫を祝う『遠野ホップ収穫祭』が開催されます。遠野市のもうひとつの名物であるジンギスカンも食べられるビール好きにはたまらないイベントです。昨年、私は同時期に開催される『遠野じんぎすかんマラソン』に参加した後、遠野産のホップを使用したビールとジンギスカンを堪能させて頂きました。



写真-2 遠野ホップ収穫祭の様子

遠野市は遠野南部氏1万2千石の城下町として、また沿岸と内陸を結ぶ宿場町として発展してきました。市では歴史・文化を生かしたまちづくりをしており、昔ながらの街並みを楽しむことができ、市内のあちらこちらに曲がり家や蔵を活用したギャラリー等があります。

いろいろある建物の中で、私のお勧めは、遠野浄化センターです。遠野浄化センターは、寺院の多い閑静な住宅街の一角にあります。管理棟は屋根瓦と腰壁に海鼠(なまこ)壁をめぐらせた土蔵風の作りになっており、庭園のような植栽と相まって下水道施設とは思えない佇まいです。遠野浄化センターは、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組みとして評価されて、1997年度には国土交通省の『手作り故郷賞』受賞しております。この遠野浄化センターは、当社の諸先輩方が設計を担当させて頂いたと聞きました。



写真-3 古い町並みに調和している遠野浄化センター

遠野市にお出かけの際は、ぜひ遠野浄化センターにもお立ち寄りください。

(3) 秋田県 北秋田市 (旧阿仁町)

北秋田市は、秋田県の北部位置する人口約32,000人のまちです。県立自然公園に指定されている森吉山麗を中心にクマゲラの棲むブナの原生林や大小さまざまな滝が散在し、自然景観や山岳溪流に恵まれています。

私が北秋田市の旧阿仁町を訪れたのは入社3年目の夏でした。現地調査のため、上司と二人で盛岡市からレンタカーを使って旧阿仁町に向かいました。目的地は国道105号から脇道に入った山奥にある根子(ねっこ)と呼ばれる地区です。この根子地区に行くには根子トンネルを通る必要があります。根子トンネルは車が1台通るのがやっとの延長約600mの小さいトンネルです。対向車が来たらどうしようかと、不安に駆られながら、薄暗く狭く長いトンネルを抜けると、ぱっと眼下に、四方を山々に囲まれたすり鉢状の小さな集落が姿を現します。

小さな集落の根子地区には、根子川というきれいな小川が流れていて、この川沿いにひっそりと数十軒の集落を形成しています。この集落を取り囲むように田畑が広がっていて、まるで日本昔むかし話やジブリ映画に出てきそうな雰囲気があり、タイムスリップした感覚になったのを覚えています。

根子地区は、熊などの狩猟を生業とするマタギ集落で、阿仁マタギの発祥の地で知られています。1975年に根子地区と国道105号を結ぶ根子トンネルが開通するまでは、



写真-4 根子トンネルの向こうには日本の原風景があります

知る人ぞ知る秘境だったそうです。現在、根子地区には130人ほどが生活しておりますが、残念ながらマタギを専業とする人はいないとのこと。

気になった方は、根子地区に足を運んではいかがでしょうか。きっと日本の原風景に出会えます。

(4) 山形県 東根市

東根市は、山形県内陸部の中央に位置する人口約47,000人のまちです。空港、新幹線及び高速道路の交通網が充実し、子育てや教育に力を入れていることから、人口増加が続いています。こどもが1日中、無料で遊べる施設も市内のあちこちにあります。私が住む仙台市内から車で1時間ほどの距離にあるため、休日には家族で良く遊びに行きます。

東根市は、もも、ぶどう、ラ・フランスなどの果物の産地ですが、特にさくらんぼは東根市が生産量日本で、佐藤錦の発祥の地です。このさくらんぼの収穫時期に合わせて毎年6月に『さくらんぼマラソン大会』が開かれます。全国から約12,000人のランナーが集まる大会で、陸上自衛隊神町駐屯地をスタートとゴールとし、住宅街とさくらんぼ畑を通るコースとなっています。沿道では、地域のおじいちゃんやおばあちゃん、近くの小学生のこどもたちが『がんばれ かごしま』や『ファイト ひょうご』など47都道府県の手作りのプラカードを持って一生懸命に声援を送ってくれます。10kmコースを1時間切るのがやっとの私ですが、毎年参加しています。

山形県は、寒暖の差が大きく、そばの育成に適した気候であることから国内有数のそばの産地です。山形県には、横長の板に2～3人前のそばを豪快に盛りつけた『板そば』、イカの足の天ぷらと冷たいそばを一緒に食べる『ゲソ天そば』、山菜ときのこを鍋に仕立てて、冷たいそ



写真-5 手作りのプラカードで応援してくれる子供たち



写真-6 甘じょっぱい汁がやみつきになる冷たい肉そば
一味唐辛子はお好みで

そばにかけて食べる野趣あふれる『山菜そば』など、その土地ごとにいろいろな食べ方があります。

その中で、最近、私が一番好きなのは『冷たい肉そば』です。冷たい肉そばとは、東根市に隣接する河北町が発祥で、鶏だしでしょうゆ味の冷たい汁そばです。具材はスライスした鶏肉と刻みねぎがのっているだけで、いたってシンプルなそばですが、甘じょっぱいスープ、コシのある田舎そば、歯ごたえの良い鶏肉が絶妙なバランスで、くせになります。市内には、おいしいそば屋さんがたくさんあるので、いろいろなお店で冷たい肉そばを食べ歩いています。

東根市にお越しの際、飛行機は『おいしい山形空港』、新幹線は『さくらんぼ東根駅』でお降りください。

3. おわりに

以前まで、私は担当させて頂いた自治体を知ろうとした時、ホームページや市勢要覧、各種計画図書で調べるだけで、仕事の対象として見るのがほとんどでした。しかし、ある時にちょっと見方を変えて旅行や観光に行く感覚で調べてみると、仕事の視点では見えなかった名所や特産品、名物など意外な魅力があることに気づきました。今回、4つの自治体しかご紹介できませんでしたが、他にも魅力的な『あのまち このまち』がたくさんあります。

私も上下水道事業に携わる技術者のひとりとして、自治体のまちづくりに少しでもお役に立てれば幸いです。